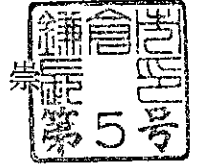


鎌 総 第 550 号

令和 5 年 (2023 年) 5 月 18 日

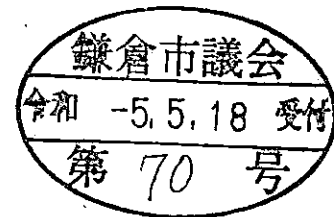
鎌倉市議会議長 様

鎌倉市長 松 尾



文書質問への回答について

標記の件につきまして、別紙のとおり回答します。



事務担当

総務課総務担当 (内線2242、2243)

議会受付番号	文書質問第2号
質問者	長嶋竜弘 議員
答弁する者	市長（健康福祉部新型コロナウイルスワクチン接種担当）

文書質問に対する答弁書

鎌倉市議会基本条例第7条第3項の規定に基づく文書質問第2号の質問について、次のとおり答弁いたします。

1 質問の内容

新型コロナウイルスのワクチン接種について、WHO(世界保健機関)が3月28日に新たな指針を発表。医療従事者、高齢者、糖尿病や心疾患などの基礎疾患がある人、免疫不全の人、妊婦については、半年または1年ごとの定期的な接種を推奨。一方で、60歳未満の健康な成人、基礎疾患のある子ども、若者については、追加接種は1回までを推奨し、「それ以上の接種も安全だが公衆衛生上の効果は比較的低い」として、定期的な接種について推奨はしていない。さらに、健康な子どもや若者への接種については安全で効果はあるものの、感染時に重症化しにくい「接種による公衆衛生上の効果は、はしかなどの従来の子ども向けワクチンと比べ、はるかに低い」として、接種は各国の判断に委ねている。

そういった中で、東京理科大学名誉教授村上康文先生によると、3回目以降の追加接種によりIgG4抗体が出来上がる。このIgG4抗体は非炎症性誘導抗体である事が問題で、感染しても発熱しないし、炎症を誘導しないので、見かけ上は感染していないように見えるが、感染している。更にウイルスを不活化する抗体が減ってしまう。この事からコロナウイルス及びスパイクタンパクを除けなくなる事は問題で、全身にダメージを広げてしまうので、原因がわからないまま亡くなる方が増加する要因になっている。これは、コロナウイルスに感染した事が認識されないで亡くなっていると言う事であり、大変大きな問題である。

WHOの見解とIgG4が産生される事の問題を鑑みて、今後のコロナワクチンの追加接種についてどのように考えているのか伺いたい。

2 質問の理由

今後の追加接種実施により健康被害は更に拡大するため接種を止める必要がある。追加接種による他の様々な問題が指摘されており、QRの村上先生の解説動画をご覧いただいた上でご回答願う。

QRコードリンク先) <https://sp.nicovideo.jp/watch/sm42097931>

3 答弁

厚生労働省の資料の中には、3回目の接種以降に IgG4 抗体が産生される事について言及されている部分は確認できませんでした。

新型コロナウイルスワクチンについては、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による有効性や安全性の審査を経て、薬事承認をされており、承認の過程でワクチンの有効性等について議論されているものと認識しています。

また、世界保健機関（WHO）が指針を改定したことについては承知していますが、新型コロナウイルスワクチン接種事業は、予防接種法に基づく予防接種に位置付けられた法定受託事務となるため、本市としては、国の方針に基づき、今後も接種環境を整えてまいります。